

第6回岩手・宮城内陸地震に係る山地災害対策検討会 議事要旨

1 開催日時：平成20年8月30日（土）13：00～16：00

2 開催場所：仙台市ホテル白萩2階錦の間（宮城県仙台市）

3 議事

（1）各流域の治山計画案（中間とりまとめ）

（2）荒砥沢地すべりの課題整理3

4 主な検討結果・報告及び委員の発言内容

（1）各流域の治山計画案（中間とりまとめ）

- ・地すべりについて、すべり面が河床の下をえぐるような場合、対策には十分注意する必要がある。
- ・流路工を行う際、周辺の土砂が不安定な中で設置するため、表面水による浸食対策を考慮する必要がある。
- ・今後の融雪などにより、崩壊箇所が増えることも考えられるので、治山計画はフレキシブルに実行していく必要がある。
- ・土砂以外にも、流木が下流の施設に影響を及ぼすことが考えられるため、谷止工にしても、透過型・不透過型の選択を考慮する必要がある。
- ・最終的な報告では、治山の対策だけではなく、今回の初動動作や応急対策、地元からの要望とその対応などについて、整理を行い、今後も活用できるような形としてはどうか。
- ・緑化の方針についても、今後1～2年内の対策として、山腹工を行って復元するのか、自然に回復するのを期待するのか、整理するのが良いのではないか。
- ・緑化に当たっては、郷土樹種で行うのか、先駆樹種を導入するのが良いかという議論はある。

（中間とりまとめについては、委員より了承された）

（2）荒砥沢地すべりの課題整理3

- ・地すべりについて、これからも動く可能性があるとすれば、末端部の対策が変わってくるので、現在の安定度をきちんと評価していく必要がある。
- ・地すべりの機構は非常に複雑である。主たる移動体の動きについては説明がつくが、二列のリッジ（尾根）については断面上の土量のバランスがあっていないように思う。それぞれ動きのタイプが異なるのではないか。

以上